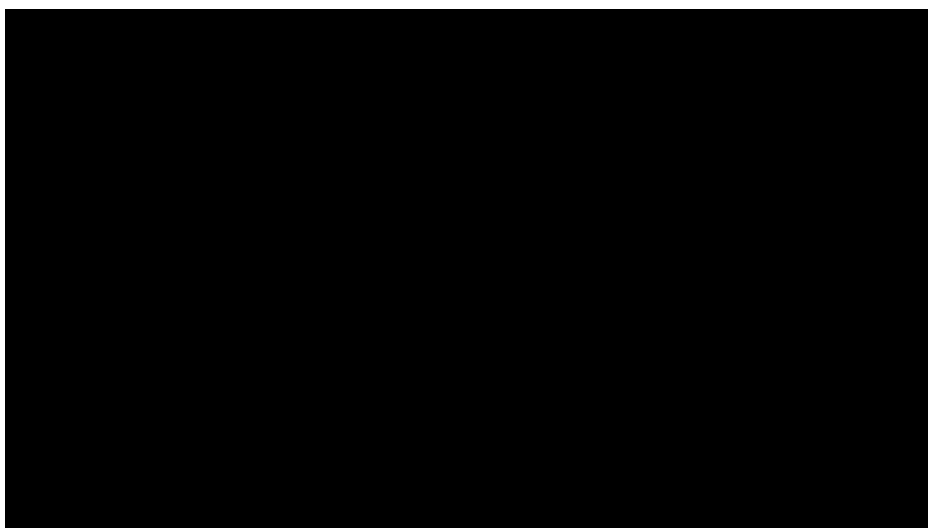


星色夜空



星が広がる空

廣闊星空下

一人立ち止まって
伝えられずにいる
この想い 見上げて

一個人駐足
傳達不到的思緒
仰頭許下心願

目に見える物は
全部 愛おしくて
耳に届く音は
何もかも 美しい

眼中映入的事物
全部都如此可愛
耳中傳入的聲音
句句都如此美麗

星を 線で結んで
君を描いて
瞳 の中に 映した
いつも 強がる
私は突っぱねて
本当は 君が居ないと
駄目なのに

用線條將星星連起來
畫出妳的樣子
牢牢記在眼中
一直在 逞強的
我一直在抗拒
其實 沒有妳
就完全不行

遠く 遠く 続いてる空
その向こうで 君は 何
想う
いつか消える あの星の
下
永遠を願い 想い 見上げ

向遠方延展的夜空
那一端的妳 在想什麼
不知何時會消失的 那顆
星下
但願人長久 許下心願

強く 弱く 光を放つ
君の近くに 北斗七星
そんな 輝きであるよう
に
君を想い 願い掛けて

忽強忽弱 閃爍亮光
妳的附近 有北斗七星
就像那星的耀眼
帶上我對妳的想念

夜が明けていく
君を想えなくなる
朝が来る頃には
また強がってしまう
微かな光は
もっと愛おしくて
朝へ向かう音に
耳を固く 塞ぐ

夜漸漸破曉
想妳的時間將盡
迎來早晨的時候
又要逞強起來
細微的光亮
愈發變得愛惜
對着破曉的聲音
嚴實地堵上耳朵

時を止めて夜が続いてく
魔法が
この手に あればいいの
に
本当は君と居るときも
同じように
ずっと 思っているのに

如果有能讓時間停止繼續
夜晚的魔法
在我手上的話就好了
其實和妳在一起的時候
也是一樣
一直在想着妳

長く 永く 続いてる夜
この闇の中で 君を想う

夜晚永遠持續下去
這片黑暗中 在想着妳

いつも隠して持ち歩いた
君がくれた人形見つめ

一直藏在身邊隨身帶着
盯着妳給我的人偶

弱く 強く 何度も 君
の
名前を 繰り返し 呼ん
でいる
よく間違えては怒られた
覚え難い 愛しい名前

細聲地大聲地 無數次
翻來覆去呼喊妳的名字
經常搞錯惹妳生氣
很難記的 喜歡的名字

遠く 遠く 続いてる空
その向こうで 君は 何
想う
いつか消える あの星の
下
永遠を願い 想い 見上げ

向遠方延展的夜空
那一端的妳 在想什麼
不知何時會消失的 那顆
星下
但願人長久 許下心願

強く 弱く 光を放つ
君の近くに 北斗七星
そんな 輝きであるよう
に
君を想い 願い掛けて

忽強忽弱 閃爍亮光
妳的附近 有北斗七星
就像那星的耀眼
帶上我對妳的想念

這首魔理莎和愛麗絲的「星色夜空」用詞都比較簡單，就只放註音版吧。只不過翻譯的時候，譯着譯着還在想，歌詞中提到兩人分處兩地的思念，會不會不僅僅是遠距離，而是壽命論下的陰陽兩隔呢？

ほし ひろ そら

星が広がる空

ひとり た ど

一人立ち止まって

つた

伝えられずにいる

おも みあ

この想い 見上げて

め み もの

目に見える物は

ぜんぶ いと

全部 愛おしくて

みみ とど おと

耳に届く音は

なに うつく

何もかも 美しい

ほし せん むす

星を 線で結んで

きみ えが

君を描いて

ひとみ なか うつ

瞳 の中に 映した

つよ

いつも 強がる

わたし つ

私は突っぱねて

ほんとう きみ い

本当は 君が居ないと

だめ

駄目なのに

とお

とお

つづ

そら

遠く 遠く 続いている空

む

きみ

なに おも

その向こうで 君は何想う

き

ほし

した

いつか消える あの星の下

とわ

ねが

おも

みあ

永遠を願い 想い 見上げ

つよ

よわ

ひかり

はな

強く 弱く 光を放つ

きみ

ちか

ほくとしちせい

君の近くに 北斗七星

かがや

そんな 輝きであるように

きみ

おも

ねが

か

君を想い 願い掛けて

よる

あ

夜が明けていく

きみ おも

君を想えなくなる

あさ く ころ

朝が来る頃には

つよ

また強がってしまう

かす ひかり

微かな光は

いと

もっと愛おしくて

あさ む おと

朝へ向かう音に

みみ かた ふさ

耳を固く塞ぐ

とき と よる つづ まほう

時を止めて夜が続いてく魔法が

て

この手に あればいいのに

ほんとう きみ い おな

本当は君と居るときも 同じように

おも

ずっと 思っているのに

ながなが つづ よる

長く 永く 続いている夜

やみ なか きみ おも

この闇の中で 君を想う

かく も ある

いつも隠して持ち歩いた

きみ

にんぎょう み

君がくれた人形 見つめ

よわ

つよ

なんど

きみ

弱く 強く 何度も 君の

なまえ

く

かえ

よ

名前を 繰り返し 呼んでいる

まち

おこ

よく 間違えては怒られた

おぼ

にく

いと

なまえ

覚え難い 愛しい名前

とお

とお

つづ

そら

遠く 遠く 続いている 空

む

きみ

なに おも

その向こうで 君は 何思う

き

ほし

した

いつか消える あの星の下

とわ

ねが

おも

みあ

永遠を願い 想い 見上げ

つよ

よわ

ひかり

はな

強く 弱く 光を放つ

きみ

ちか

ほくとしちせい

君の近くに 北斗七星

かがや

そんな 輝きであるように

きみ

おも

ねが

か

君を想い 願い掛けて

